

## 令和7年度京都大学図書館機構長賞選考結果報告

(並びは受付順)

(1)

活動の名称 : 「電子ブックフェア」を通じた、エリア連携図書館における全学図書館機能への貢献

対 象 者 : 吉田南総合図書館、桂図書館

推 薦 者 : 附属図書館利用支援課（他薦）

活動の種類 : 部局協働事業、部局横断的なワーキンググループ等の活動

結 果 : 採択

理 由 : 吉田南総合図書館と桂図書館は、2024年10月に附属図書館とともに3館連携企画「電子ブックフェア」を実施しました。

この活動は、吉田南総合図書館が考案した「学生が直感的に電子ブックへ誘導される仕組み」を3館共通で採用し、図書館機構予算により整備している学生用電子ブックの利用促進企画を実施したものです。

このフェアにより、年間3,500件を超えるサブスクリプション型電子ブックの利用に繋がるなど、活動の効果がみられました。また、全学的に利用可能な電子ブックを拡充することで、学生の自発的な学修および教員の教育研究の環境整備が推進されました。

学生用電子ブックの全学的な利用促進を通じて、エリア連携図書館が担う全学図書館機能に貢献した点から、京都大学図書館機構長賞要項第1条に定める「①京都大学図書館の機能向上への貢献」および第2条に定める「①先端的・特徴的な取り組みにより図書館機能の向上を図った活動」と認め、ここに京都大学図書館機構長賞を授与します。

(2)

活動の名称 : 理学部中央図書室による理学研究科教室図書室のサテライト化  
対 象 者 : 理学研究科  
推 薦 者 : 附属図書館利用支援課（他薦）  
活動の種類 : 図書館・図書室による活動  
結 果 : 採択  
理 由 : 理学研究科では、教室図書室のサービス機能維持を目的として、5  
教室図書室のサテライト化を計画し、現在その実行に取り組んでいます。

サテライト化は、これまで教室図書室ごとに職員を配置して開室運営していた体制を転換し、中央図書室所属の職員が週2日ずつ各教室図書室に出向き開室運営業務を担う取り組みです。また、図書委員会の開催や予算管理、選書などの管理業務は、すべて理学部中央図書室が一括して引き継ぐ体制を構築しました。

これらの取り組みにより、所属する学生や研究者の利用環境が従来どおり確保され、図書室開室サービスの安定性や持続可能性を高めるとともに、中央図書室が窓口として機能することでサービスの平準化・向上も図られました。

理学研究科の教室図書室サテライト化の取り組みは、学内における図書館サービスの維持向上に貢献しているという点から、京都大学図書館機構長賞要項第1条に定める「①京都大学図書館の機能向上への貢献」および第2条に定める「②図書館機能の維持提供を長期的に安定して継続した活動」と認め、ここに京都大学図書館機構長賞を授与します。